VPI Aries Scout Turntable
JMW-9 Memorial Tonearm

VPI アリエス・スカウト・ターンテーブル
JMW-9 メモリアル・トーンアーム

取扱説明書

VPI Industries Inc.

■重要： はじめにお読みください。

- 下記の安全上の注意をよく読み、指示に従ってください。
- すべての梱包部材は捨てずに保管してください。移動したり発送する場合には、移送中の事故や破損を防ぐため、必ずオリジナルの梱包で行ってください。
- Aries Scout は平らで水平な場所に設置してください。水平な場所に設置することにより、セットアップが容易になり、高音質でお楽しみいただけるとともに、ベアリングにかかる負担を軽減することができます。

■安全上の注意

⚠ 感電や怪我を防ぐため、下記の指示に従ってください。

※ フォノモーター部分を分解しないでください。感電の原因となります。

※ 雨や過度な湿度のもとで使用しないでください。

※ トーンアームの支柱部分の先端は非常に鋭くとがっています。触れないようにご注意ください。怪我の原因となります。

⚠ 製品の故障の原因となりますので下記の指示に従ってください。

※ 不在時にターンテーブルを回したままにしないでください。

※ 通気のよい場所でご使用ください。

※ 通気を良くするため、硬くしっかりした場所に設置してください。

■はじめに

Aries Scout ターンテーブルは精密機器です。工場で細部までテストを行い、最低 2 時間のエージングを行った上で出荷されています。回転速度、ワウ、フラッター、ランブル（ターンテーブルのゴロ）などがチェックされ、VPI の基準を満たすものだけが出荷されています。

■基準

- ワウ＆フラッター： 0.02%以下
- ランブル： -80dB 以上
- 回転精度： 0.1%以内
- 総質量： 約 14.5 kg
- プラッター振れ幅： ±0.0254mm

■製品仕様

- 35mm 厚ソリッド・アクリル・プラッター
- テフロン＋真鍮製インバーテッド・ベアリング/高剛性シャフト（硬度 60 ロックウェル）
- 600RPM AC シンクロナス・ドライブモーター
- ステンレス・ボールベアリング付きアルミ製スパイクフット
- ハイパロン・ゴム製ドライブベルト

■別途ご用意いただくもの

◆ ご使用にあたり、下記のものはお客様にて別途ご用意いただく必要があります。

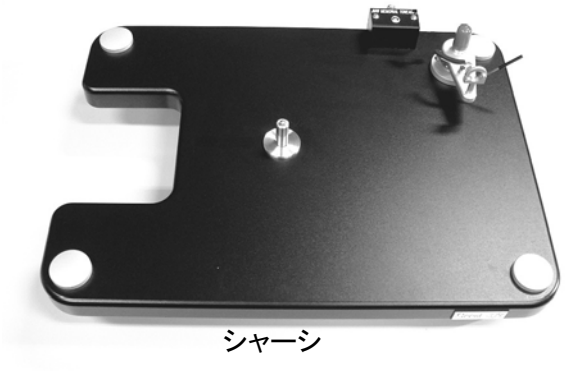
- フォノイコライザー、ヘッドアンプ、昇圧トランスなど、レコード再生に必要なシステム環境、および接続用の RCA オーディオ・ケーブル
- カートリッジ
- 針圧計

◆ ご使用にあたり、下記のものは必要に応じてご準備ください。

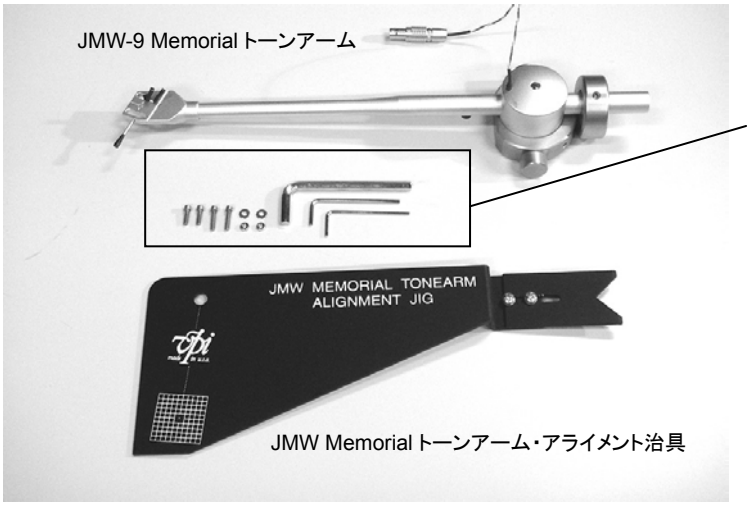
- アース線、またはビニール被覆銅線
- 水準器
- ストロボ・スコープ
- ピンセットなど（カートリッジのリード線取り付け用）
- 方眼定規など（アーム水平確認用）
- ベビーパウダー（ベルトのスリップ用）
- 手鏡（アジマス調整用）
- 各種ドライバーなど

ご不明な点はご購入の販売店にご相談ください。

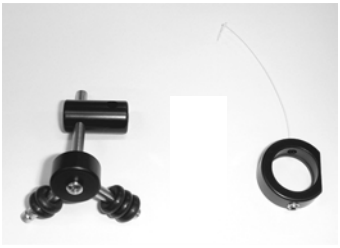
■内容物一覧



シャーシ



ビス（短） x2
ビス（長） x2
ワッシャー x2
ナット x2
（カートリッジ取り付け用）
レンチ x3（1/16、5/64、3/16 インチ）



アンチ・スケーティング・ユニット本体 x1

ワイヤー＆ハーネス x1

■製品の開梱について

出荷の際に傷つかないようにターンテーブルとアームは丁寧に梱包されています。製品を移動したり発送する場合に備え、梱包部材、および梱包箱は大切に保管してください。

1. ドライブベルト、取扱説明書の入った袋を取り出してください。

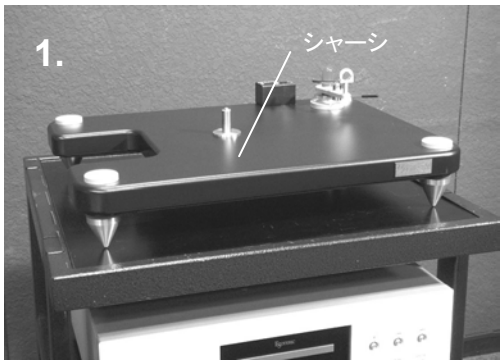
2. シャーシを取り出してください。

3. 次の層に入っている付属品袋（部品類）を取り出してください。

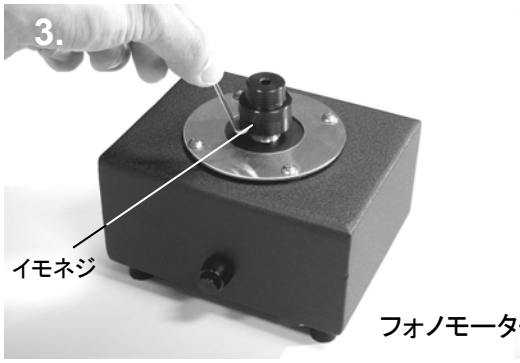
4. スポンジの緩衝材に JMW-9 トーンアームがはめ込まれていますので、慎重に取り出して安全な場所に置いてください。トーンアームには Lemo 型コネクターの付いた細いトーンアーム・ケーブルが出ていますので、傷つけないように特に注意してください。

5. ターンテーブル・プラッターとモーター、クランパーとワッシャー入りの袋を取り出してください。モーターのプーリーは工場出荷時、±0.0127mm の精度で加工されています。プーリーにものをぶつけたり傷つけたりしないようにご注意ください。

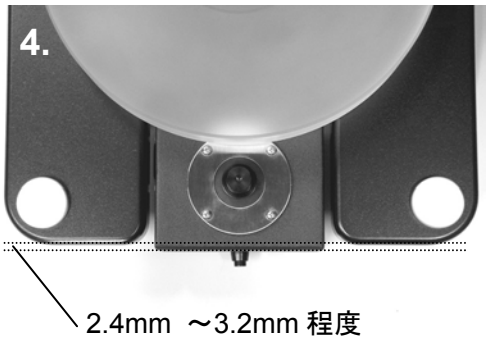
※ 仕様および外観は改善のため予告無く変更する場合がございます。
※ 製品の写真、及びイラストは実際の製品と一部異なる場合がございます。

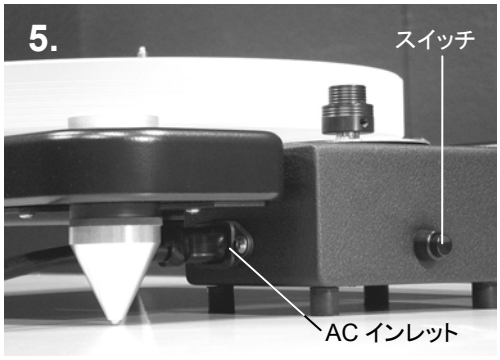

1.
シャーシ

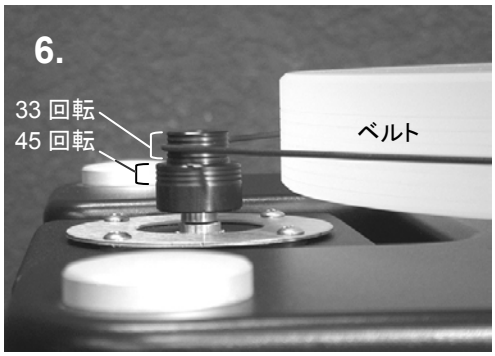
2.
プラッター

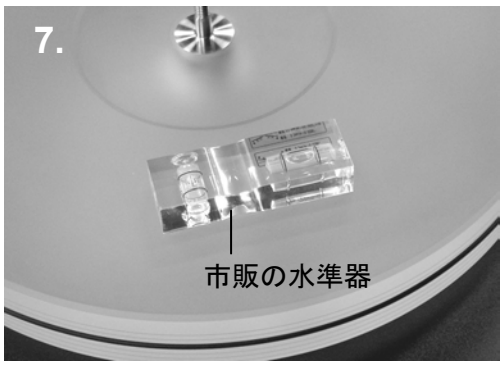

3.
イモネジ
フォノモーター

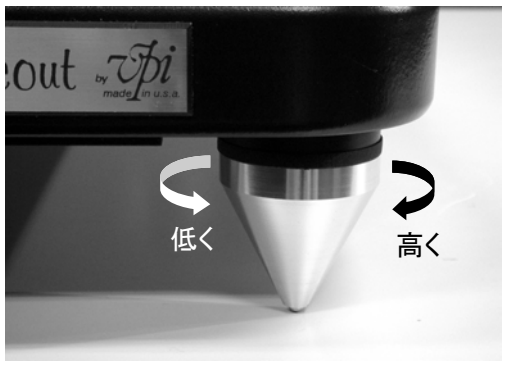
50Hz 用
60Hz 用
プーリー


4.
2.4mm ～3.2mm 程度


5.
スイッチ
AC インレット


6.
33 回転
45 回転
ベルト


7.
市販の水準器


低く
高く

■設置について

VPI Aries Scout は平らで水平な場所に設置してください。水平な場所に設置することにより、セットアップが容易になり、高音質でお楽しみいただけるとともに、ベアリングにかかる負担を軽減することができます。

1. ラックの上に、シャーシを設置してください（モーターを置くための四角い切り欠きがある方を左にします）。VPI Aries Scout のアイソレーションが高いほど音質は向上します。

⚠ 脚部がスパイク状になっていますので設置の際にご注意ください。

2. シャーシにターンテーブル・プラッターを載せてください。プラッター裏面のスピンドル穴に貼ってあるテープを剥がし、シャーシ上のスピンドルとプラッターのスピンドル穴を合わせてプラッターをゆっくりと載せてください。プラッターを手で回し、スムーズに回転することを確認してください。プラッターからノイズが出る場合には、プラッターのベアリングを慣らすためにエージング（慣らし運転）する必要があります。レコードを聴きながら約 2 時間程度回転させると適切な状態となります。プラッターのベアリングは注油されていますので、最低でも 1 年間は注油する必要はありません。

⚠ 組み立ての際、軸受けに強い衝撃を与えると損傷し、使用不能となりますので、取扱には特にご注意ください。軸受けが損傷した場合、保証期間中であっても保証対象外になります。

3. フォノモーターのプーリーは工場出荷時に 50Hz 用がセットされていますので、西日本の 60Hz 地域でご使用の場合には付属の 60Hz 用プーリーに交換してください。付属のレンチを使ってプーリーにあるイモネジ（計 3 箇所）を十分に緩め、真上に引き抜いてください。交換用のプーリーをモーターシャフトに取り付け、3 箇所のイモネジを均等に締めてください。

4. フォノモーターをシャーシの四角い切り欠き部にセットします。モーター本体は約 2.4～3.2mm 程度、本体から外側に出るように置いてください。モーターのノイズを減らしたい場合には、マウスパッドなどをモーターの下に敷いてください。

5. AC 電源コードをモーター背面のインレットに接続し、壁コンセントに接続してください。（開梱時や設置時にモーターのスイッチを押していると、モーターが回転を始めます。その場合にはモーター本体左側の電源スイッチを押し、回転を止めてください。）

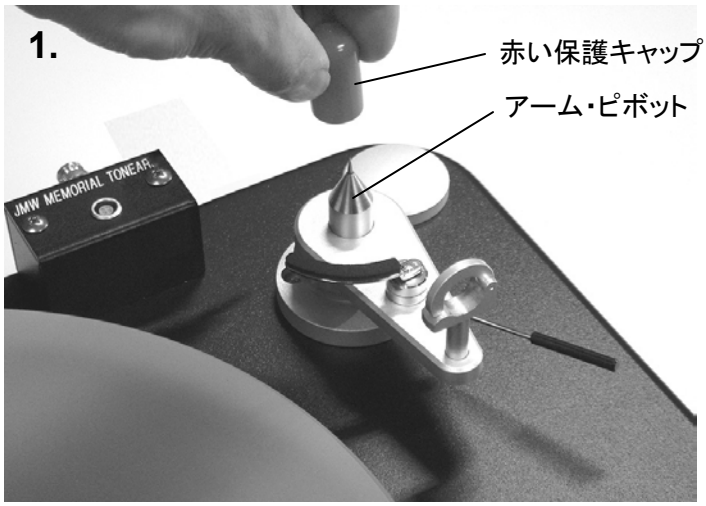
6. プーリーとターンテーブル・プラッターにベルトをかけてください。33 回転の場合にはプーリー上側、45 回転の場合にはプーリー下側（プーリーの径が大きい方）の溝にベルトをかけてください。通常は溝の中心部分にベルトをかけるようにしてください。

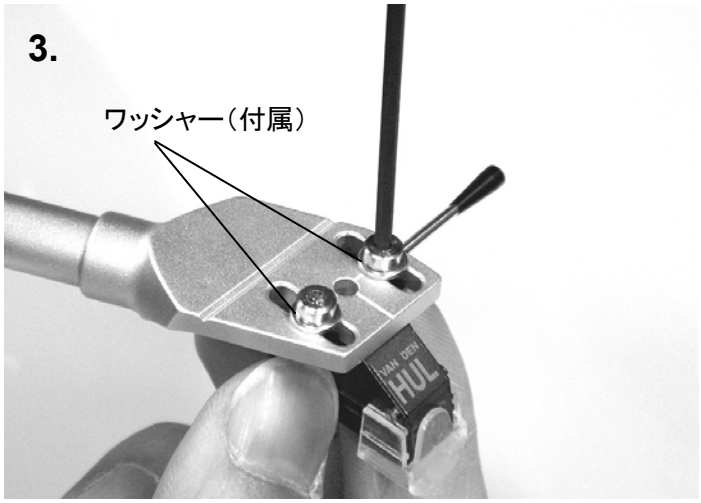
※ プーリーは上部が細く加工されており、ベルトをかける位置によって回転速度の微調整ができるようになっています。さらに正確な回転速度に調整するためには、市販のストロボスコープをご使用の上、ベルトをかける位置を微調整してください（プーリーの上の方にかけるにしたがってプラッターの回転は遅くなります）。

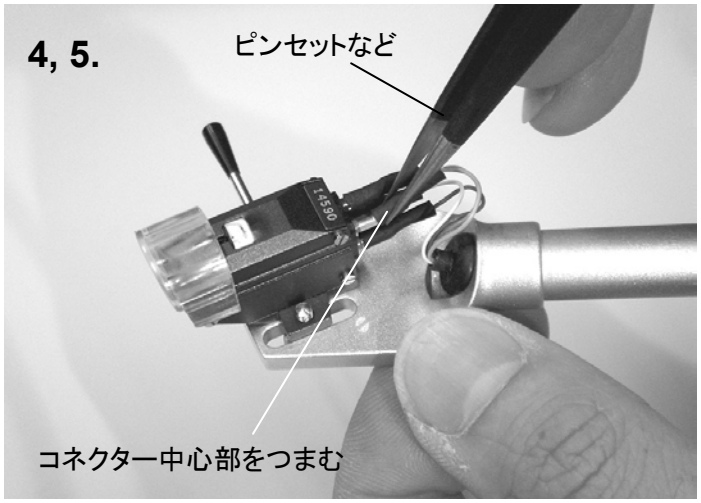
※ さらに正確な回転速度の制御を行う場合は別売の VPI SDS（シンクロナス・ドライブ・システム）をご使用ください。

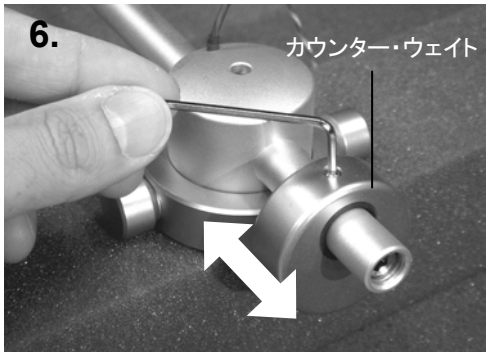
※ 起動から正常回転になるまでベルトがスリップして振動や音を発生しますが、モーターのトルクが大きいために起こる現象で故障ではありません。振動が気になる場合にはベルト、プーリーにベビーパウダーなどを付けて滑りを良くすると解決できます。ベルトのたわみによる回転ムラや振動の抑制にもなるため、お試しください。

7. ターンテーブルが水平に設置されているかを確認します。市販の水準器を使って、プラッター上の前後、左右の水平バランスが取れているかを確認してください。水平でない場合には、4 箇所のアルミ製スパイクフットを回して高さを調整してください。スパイクフットを 3 回転以上回さないと水平にできない場合には、ターンテーブルがセットされているラック、オーディオボードなどの水平をきちんと再調整することをお勧めいたします。


1.
赤い保護キャップ
アーム・ピボット
JMW MEMORIAL TONEAR


3.
ワッシャー（付属）


4, 5.
ピンセットなど
コネクター中心部をつまむ


6.
カウンター・ウェイト

■カートリッジの取り付けと調整

1. アーム・ピボット（支柱）に被せてある赤い保護キャップを取り外してください。

   ⚠ アーム・ピボット先端は鋭く尖っています。触らないようにご注意ください。怪我の原因となります。手垢などの汚れがアーム・ピボット先端に付くと、汚れやさびなど故障の原因となります。

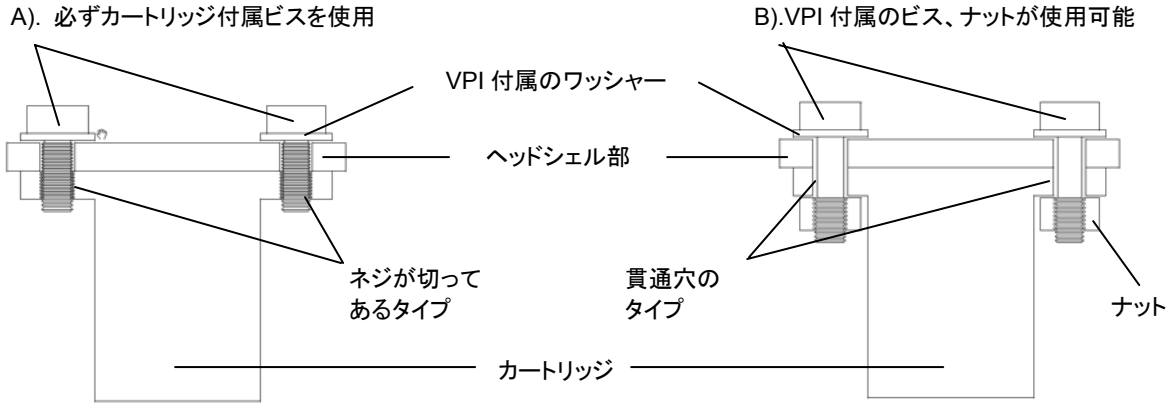
2. JMW-9 Memorial トーンアームを横に寝かせて柔らかいクッション（梱包材など）の上に置いてください。

   ⚠ トーンアームの配線材は非常にデリケートです。取扱には特にご注意ください。断線した場合、保証期間中であっても保証対象外になります。

3. カートリッジを取り付けます(適合カートリッジ自重：7～12g)。

   A). ヘッドシェルへの取り付け用の穴にネジが切ってあるカートリッジの場合は、必ずカートリッジに付属のビスをご使用ください。本製品に付属のビスはインチ規格となっておりますので、ネジ穴が合わない場 合はカートリッジ破損の原因となります。トーンアームを傷つけないよう、付属のワッシャーをビスと組み合わせてトーンアームに取り付けてください（仮留め）。

   B). 取り付け用の穴が貫通式で、ビスとナットを使って固定するタイプのカートリッジをご使用の場合は本製品に付属のビスとナットをご使用の上、カートリッジを取り付けてください（仮留め）。トーンアームを傷つけないよう、付属のワッシャーをご使用ください。



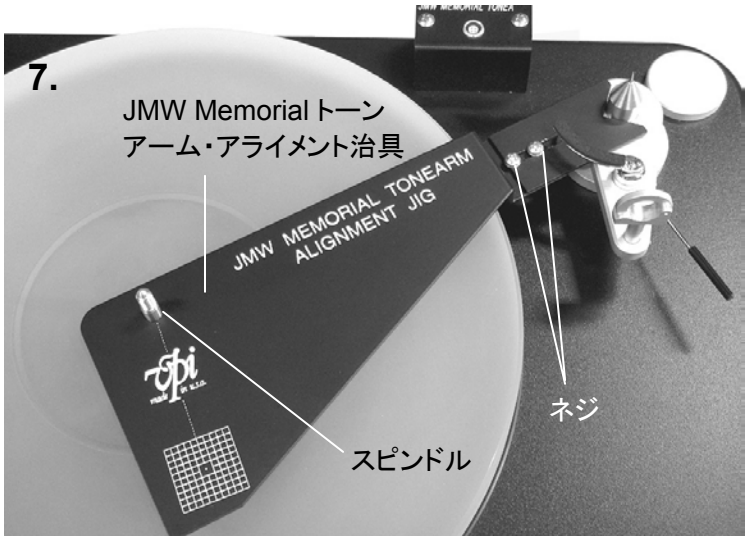
4. トーンアームのリード線の色分けは下記のとおりです。

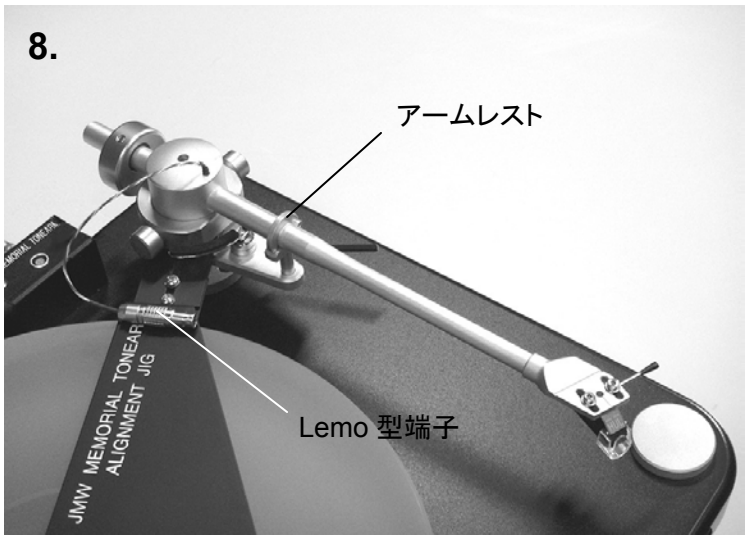
   - 赤・・・・・・・・右チャンネル・ホット
   - 緑・・・・・・・・右チャンネル・グラウンド
   - 白・・・・・・・・左チャンネル・ホット
   - 青・・・・・・・・左チャンネル・グラウンド

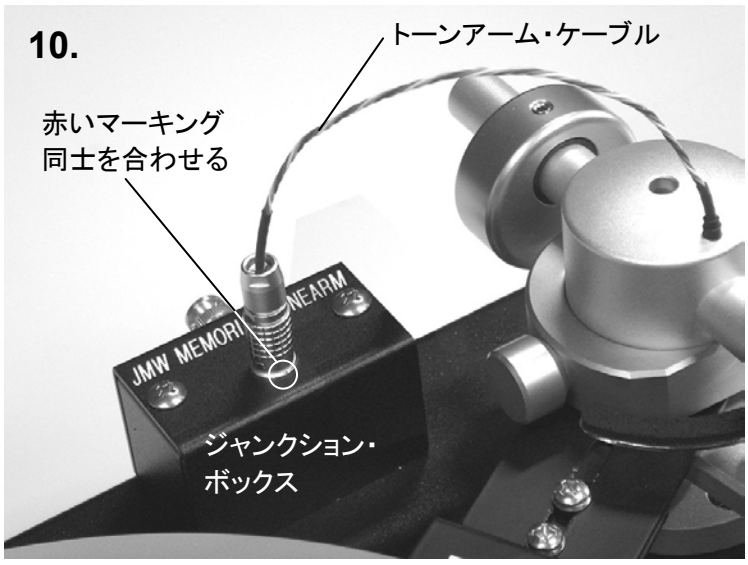
5. ピンセット、または先端の細いプライヤーなどを使ってトーンアームのリード線のコネクターをカートリッジのピンへ接続してください。トーンアームのリード線 4 本の色分けがカートリッジのピンの色分けと同じになるよう、正しく接続してください。

   ⚠ コネクターは中心部をつまむようにし、リード線を引っ張らないようご注意ください。
   ⚠ カートリッジを破損しないよう、コネクターを無理に押し込まないようにご注意ください。

6. カウンター・ウェイトを付属の六角レンチで緩め、移動範囲の中程まで下げておきます。
   ※アンチ・スケーティング機構は必ずしもご使用いただく必要はありませんが、使用する場合は、P13『■**アンチ・スケーティング・ユニットの取り付け**』にしたがって、アンチ・スケーティング・ユニットを取り付けてください。アンチ・スケーティングの調整はアームの各部の調整の最終段階（P12 以降）に行います。


7.
JMW Memorial トーン
アーム・アライメント治具
JMW MEMORIAL TONEARM
ALIGNMENT JIG
ネジ
スピンドル


8.
アームレスト
Lemo 型端子


10.
トーンアーム・ケーブル
赤いマーキング
同士を合わせる
ジャンクション・
ボックス

7. 付属の JMW Memorial トーンアーム・アライメント治具をセットしてください。印刷面を上にして幅広い方にある穴をスピンドルに挿し、幅の短い方にあるネジを緩め、アームベースの支柱部分にぴったりと当たるように長さを調節してセットし、ネジを締めこんでください。

8. カートリッジを取り付けた JMW-9 Memorial トーンアームをアーム・ピボット先端部に載せてください。トーンアームのピボット受けの部分にピボット先端が上手く収まるように丁寧に載せ、アームレストに固定してください。

   ⚠ トーンアームから出ている Lemo 型端子付きのトーンアーム・ケーブルを傷つけないようご注意ください。

9. カートリッジにスタイラスガードが付いている場合は外してください。

10. トーンアーム・ケーブルをターンテーブル右後部にあるジャンクション・ボックスに接続します。Lemo 型端子、およびジャンクション・ボックスの接続端子には赤いマーキングがありますので、マーキング同士を合わせて正しく接続してください。Lemo 型端子は反対方向には接続できないようになっていますが、無理に取り付けようとした場合、破損する恐れがあります。

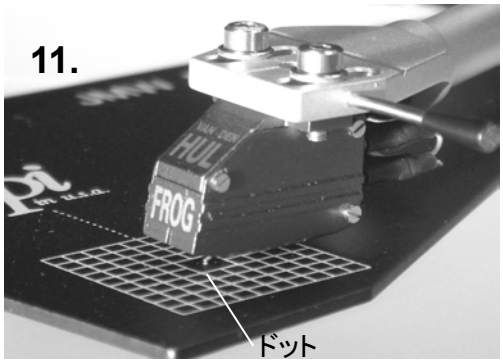
11. アームのロックを外し、アライメント治具の上にアームを移動します。アライメント治具にある方眼の中心にあるドット（点）の位置にできるだけ近い位置に針先を置いてください。

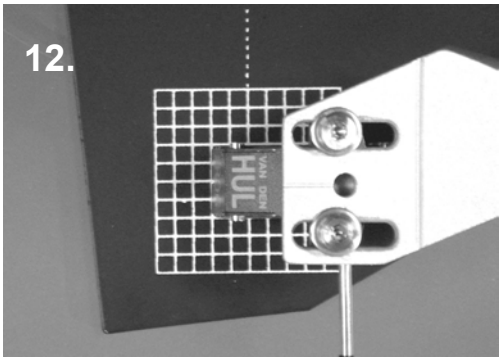
    ※ 針先が浮き上がってしまう場合には、一旦アームをアームレストに戻し、カウンター・ウェイトを前後に微調整して、針先が浮き上がらない程度に針圧を加えてください。

    ※ 初めてレコードプレーヤーをセットアップする方は予め 11 の後に針圧計を使ってカートリッジの適正針圧に近い値に設定するとよいでしょう（この時点では正確な針圧に設定する必要はありません。

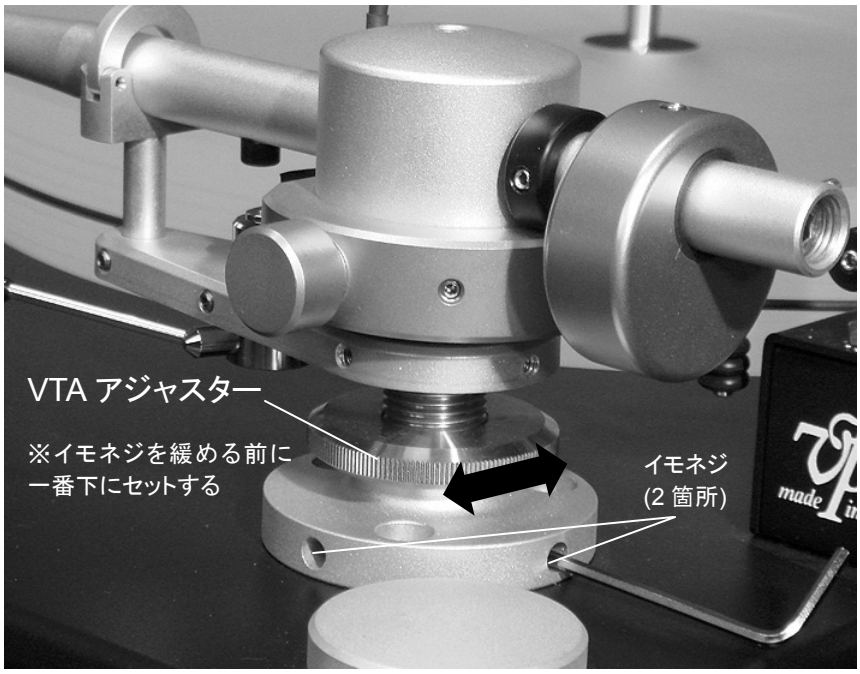
    ⚠ カートリッジのカンチレバーを折らないように細心の注意を払って作業してください。

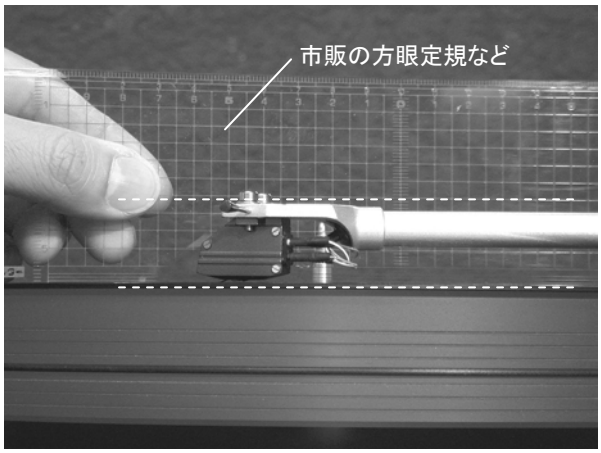
12. 一旦カートリッジの取り付けビスを少し緩め、アライメント治具の方眼にカートリッジを載せた状態で上から見て（ヘッドシェルではなく）カートリッジがまっすぐに（線と平行に）なるように位置を合わせます。方眼上のドットと針先がぴったり合うように前後の位置を調整してください。

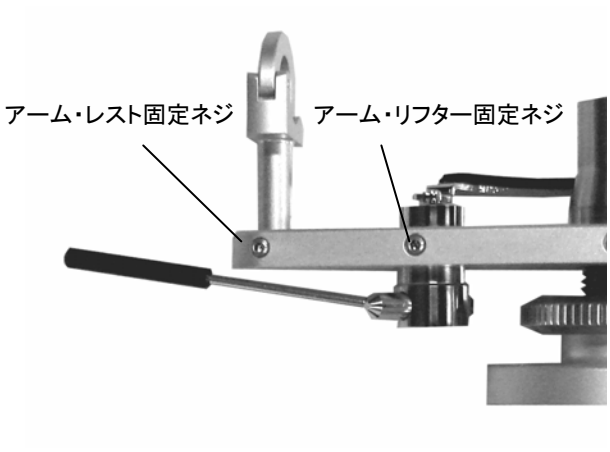


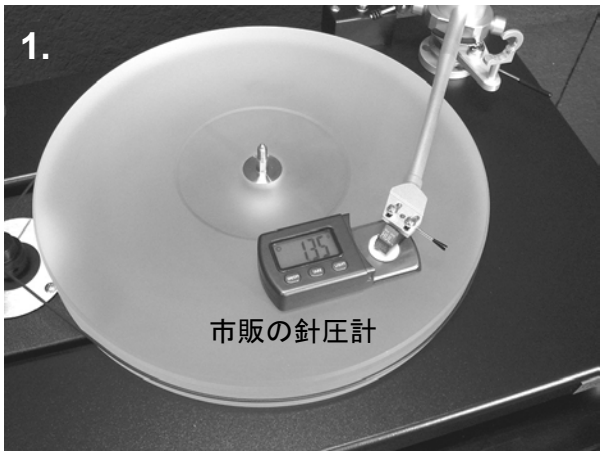


13. 調整が終わったらカートリッジが動かないように注意しながらビスを締め、カートリッジを固定してください。またアライメント治具を取り外してください。


VTA アジャスター
※イモネジを緩める前に
一番下にセットする
イモネジ
(2 箇所)


市販の方眼定規など


アーム・レスト固定ネジ
アーム・リフター固定ネジ


1.
市販の針圧計

2.

■トーンアームの高さの設定（VTA 調整）

レコードをかけたときにトーンアームがレコード盤面と平行になるようにトーンアームの高さを調整します。トーンアーム・アッセンブリーのベース部分にある２つのイモネジを緩め、VTA アジャスターを回すとトーンアーム・アッセンブリーが上下に動きますので、最適な高さに調整し、調整が終わったらイモネジを締めて固定してください。
※必ず VTA アジャスターを一番下まで回し切った状態でイモネジ 2 箇所を緩めてください。
※市販の方眼定規などでアームの水平を確認すると便利です。

VTA 調整後、必要に応じてアーム・リフターの固定ネジを緩め、高さを再調整してください。アーム・レストの高さを再調整する場合も同様に固定ネジを緩めて調整が可能です。

■針圧調整

針圧はトーンアーム後部のカウンター・ウェイトを前後に動かして設定します。カウンター・ウェイト上のネジを六角レンチで緩めて動かしてください。重量級のカートリッジで、カウンター・ウェイトが後ろいっぱいまで来てしまう場合には、重量級カートリッジに対応したより重いカウンター・ウェイトをご使用ください（別売）。
JMW-9 Memorial トーンアームには針圧調整用の目盛りがありません。別途市販の針圧計をお求めください。

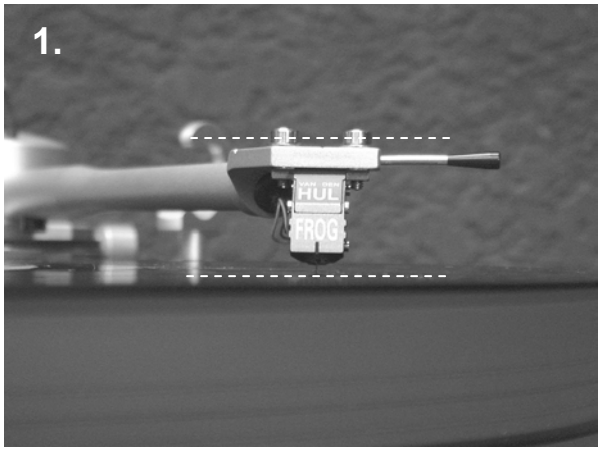
1. 針圧計をセットしてください。

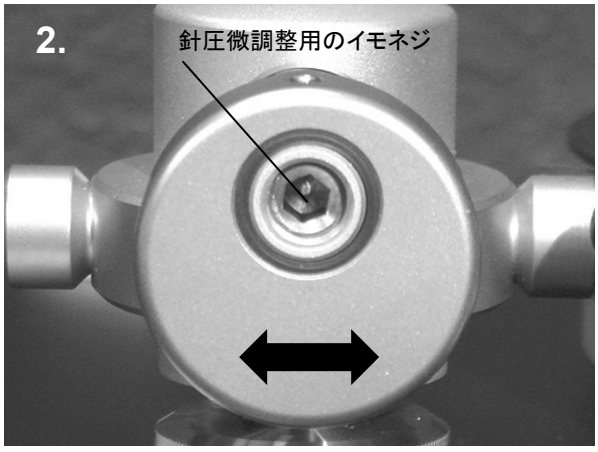
2. カウンター・ウェイトを前後に動かし、ご使用のカートリッジの適正針圧に従って正しい値に設定します。適正針圧範囲の中でより重い値に設定することを VPI は推奨しています。針圧を軽く設定した場合、重めに設定した場合と比較して、高周波の振動がレコードの溝に与えるダメージがより大きくなります。針圧計の使用方法については針圧計の取扱説明書に従ってください。

■アジマス調整

1. ヘッドシェルを前方から見たときに、レコード盤面と水平であることを確認してください。
（レコードの代わりに薄い手鏡などをターンテーブル上に置き、その上にカートリッジを載せると水平の確認が容易です）。

2. カートリッジの水平が取れていない場合には、カウンター・ウェイト上部のネジを緩め、カウンター・ウェイトを左右に回転させ、ヘッドシェルが盤面と平行になるように調整してください。カウンター・ウェイトが前後に動くとカートリッジの針圧が変化しますので、前後に動かさないようにご注意ください。※アジマス調整が終わったら、再度針圧を確認します。トーンアーム末端部にあるイモネジにて針圧を微調整してください。





■アンチ・スケーティングに関して

スケーティング・フォース（＝インサイド・フォース）とは、スタイラス（針先）とレコードの摩擦によって生じる力で、トーンアームのヘッドシェルにオフセット角度が付いている場合にトーンアームがレコードの中心に引っ張られる力のことです。針先を平らな溝なしレコードの上に置いた場合、アームがレコードの中心に向かって引っ張られていく様子が確認できます。アームのメーカーはこのインサイド・フォースを相殺する方法をいろいろと考えてきましたが、針先とレコードの摩擦力は音楽信号のレベルなどによって常に変化するため、相殺することは現実的には不可能と VPI は考えています。

VPI は、徹底した試聴を繰り返した結果、テストしたすべてのトーンアームにおいて機械式のアンチ・スケーティング機構を使わず、針圧を若干重めに設定した場合にもっとも音質が優れていることを確認しています。

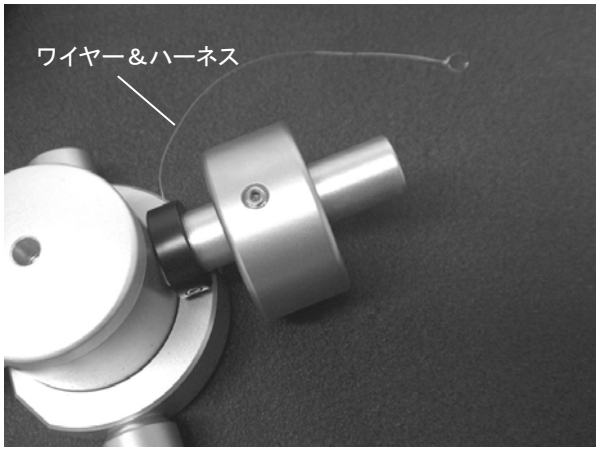
VPI JMW-9 Memorial のツイスト状のトーンアーム・ケーブルは適度な弾性があり、僅かな力で外側にアームを押し出す設計となっており、音質に悪影響を与えることなくアンチ・スケーティング機構と同等の効果を得ることができます(*1)。そのため、**本製品に付属のアンチ・スケーティング機能は必ずしも使わなければいけないものではありません。**

(*1)・・・・針圧ゼロの設定でアームをスピンドルの方向に動かし、手を離すとケーブルの弾性で自然に外側まで移動することが確認できます。

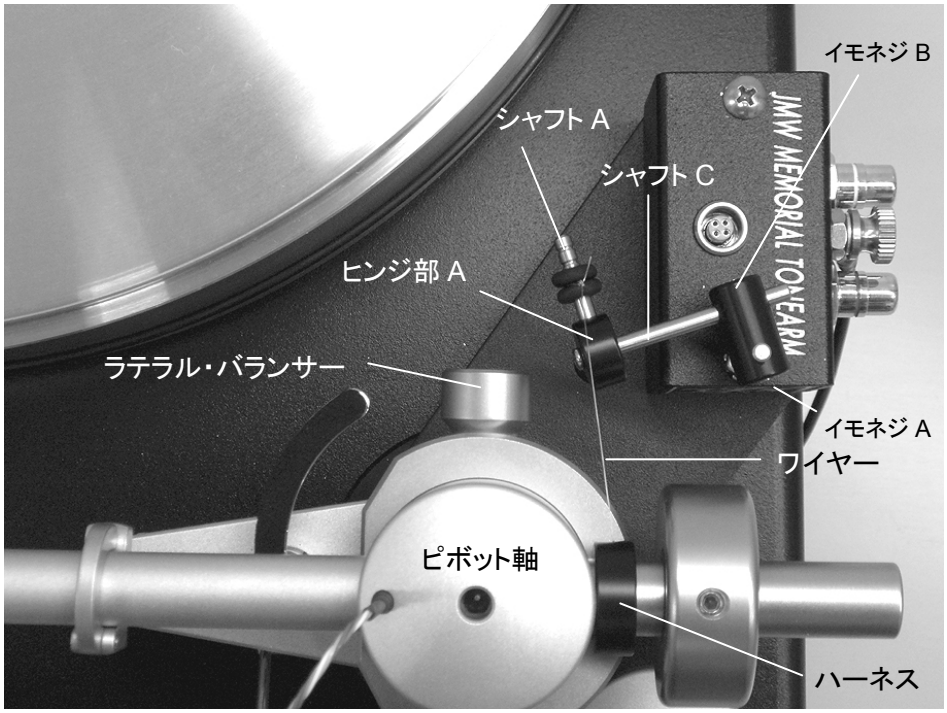
■アンチ・スケーティング・ユニットの取り付け

1. 下図のようにジャンクション・ボックス右側のシャフトにアンチ・スケーティング・ユニットを取り付けてください。

2. カウンター・ウェイトを一旦外し、ワイヤー＆ハーネスをアームに取り付けてください。



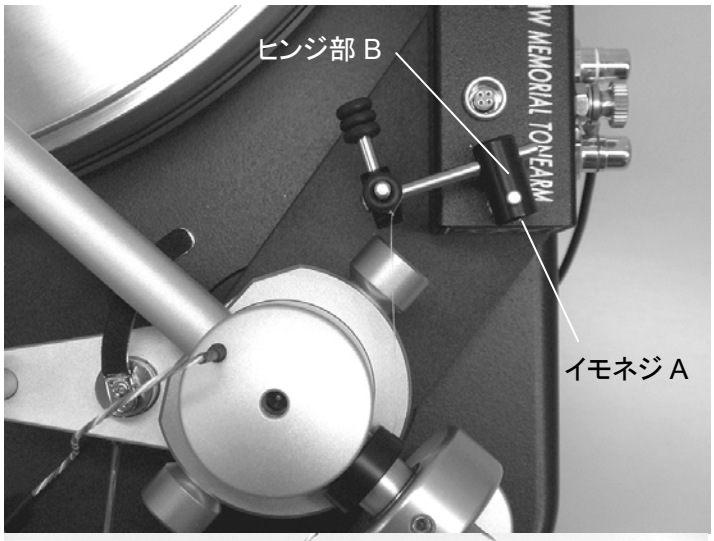
■アンチ・スケーティングの調整

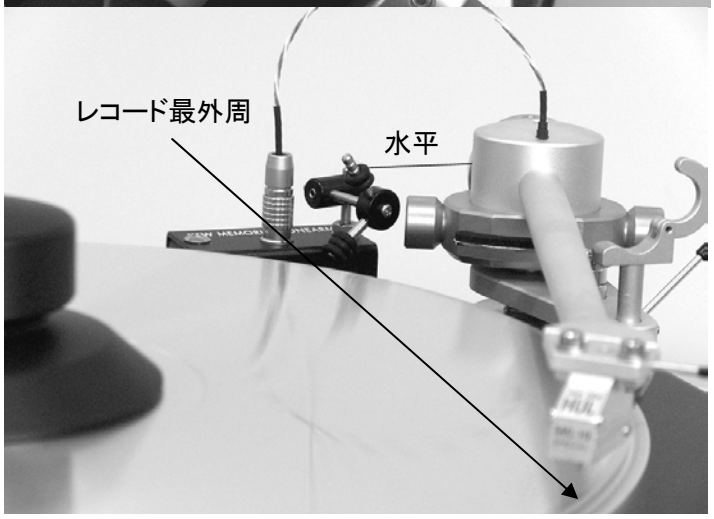


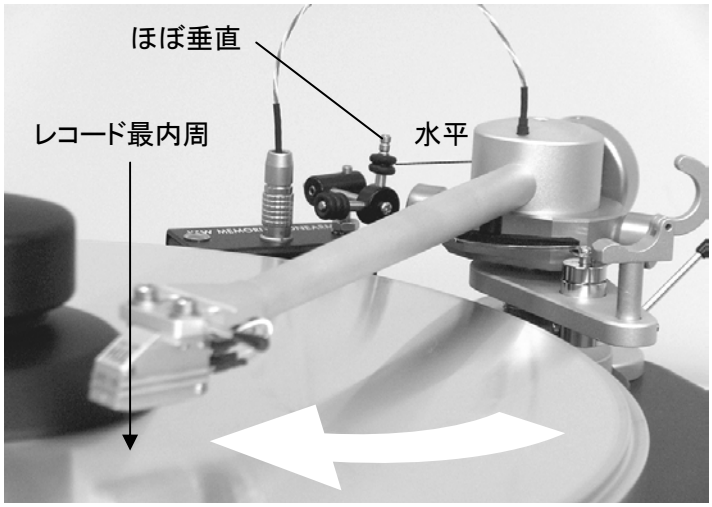
1. ハーネスをもっともピボット軸に最も近い位置にセットします。

2. 溝付きのシャフト(A)にワイヤー先端の輪を通し、上図のように 2 つのラバーリングで挟んで固定してください。根元に近い方のラバーリングがシャフト A の一番目の溝の真上に来る位置にします。

3. イモネジ B を緩め、ワイヤーがヒンジ部 A の上部に乗るようにシャフト C の長さを調整します。
4. イモネジ A、B を緩め、ヒンジ部 A がラテラル・バランサーとぶつからないようにシャフト C の角度と長さを調整します。







5. アームがレコードの最外周から最内周まで移動する間、ワイヤーが極力水平を保つよう、イモネジ A を緩め、ヒンジ部 B の高さを調整します。
   ※アームがレストポジション、またはスピンドル上に来た時にはワイヤーに傾きが発生しますがあくまでもトーンアームの実効移動範囲の中で平行を保つようにしてください。また完全に平行でなくても問題はありません。ユニットが回転してしまう場合には若干低めに設定してください。
6. 設定が終わったらイモネジ類をすべて締めて固定してください。

7. アンチ・スケーティング錘の数、位置を調整し、アンチ・スケーティングの効き具合を調整してください。錘の位置をシャフト先端に近づけるほどアンチ・スケーティングの効きが強くなります。

   ※溝の無いテストレコード、片面プレス盤の裏など特殊なレコードをお持ちの場合は、針先が極力内側に流れないように調整します（完全に静止するように調整することは出来ません）。

   ※特殊なレコードをお持ちでない場合には左右の音量バランスを注意深く聴き、バランスが均等であること、歪が無いこと、弱音部で針飛びしないことを確認し、総合的なバランスで調整してください。

8. 調整が終わったら再度針圧、アジマス調整、アンチ・スケーティング調整を繰り返し、最適なセッティングとなるよう追い込んでください。

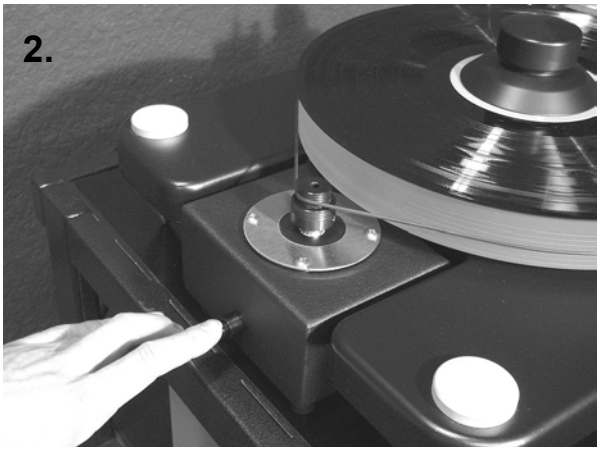
■ケーブル類の接続

トーンアーム後方にあるジャンクション・ボックスに市販の RCA ケーブルを接続し、お手持ちのフォノステージ（プリアンプのフォノ入力端子、ヘッドアンプまたは昇圧トランス、フォノイコライザーなど）に接続してください。右(R)チャンネルは赤色、左(L)チャンネルは白色で色分けされています。

ジャンクション・ボックスにはアース端子が付いていますので、ハムノイズが発生する場合には必要に応じて市販のアース線やビニール被覆銅線をフォノステージと接続してください。

■レコードの演奏

レコードをかける前にトーンアームの調整ネジ類がすべて締まっていることを確認してください。

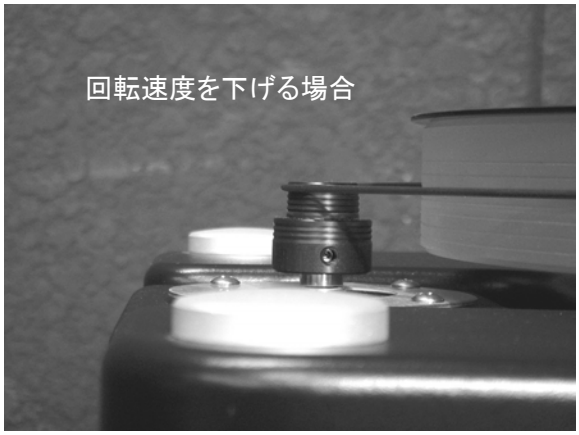


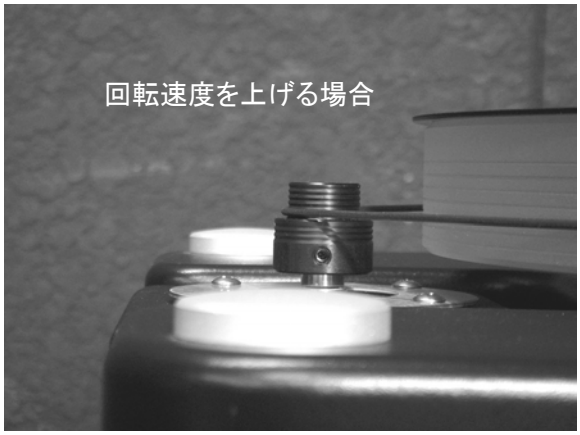
1. スピンドルに黒いラバー・ワッシャーをはめてからレコードをターンテーブルに載せ、クランパーをはめてください。VPI のクランプ・システムはレコードとプラッター間の空気を抜いて密着させ、簡易的なバキューム・クランプ・システムとして機能します。クランパーを緩めてもレコードが飛び出すこともなく、バキューム・システムにありがちな問題点や複雑さもありません。

2. 電源スイッチを押してターンテーブルを回転させ、アーム・リフターを使って針先をレコードに落とします・・・それではレコード鑑賞をじっくりとお楽しみください。

■一般的な操作

- ターンテーブルの回転速度を微調整するときは、右手の指一本を使ってターンテーブル背面でベルトを押さえ、左手を使って、回転速度を下げる場合にはベルトをプーリーの上部に、回転速度を上げる場合にはプーリーの下側にかけなおしてください。





- 本来の性能を発揮するまで、最低 20 時間エージング（慣らし運転）してください。

- フォノモーターは低いレベルのノイズを発する場合がありますがこれは故障ではなく、システムには影響はありません。モーターおよびベアリングは使用を続けるとスムーズになり、ノイズも小さくなります。

- フォノモーターは高音質化のためシンプルな回路構成を採用しており、ごく稀に逆転する場合がございますが、これは故障ではありません。逆転した場合には電源スイッチを一度 OFF にしてください。

- ハムノイズが発生する場合には、チェックのためにご使用のインターコネクト・ケーブルを外し、安価で一般的なビデオ接続用のピンコードに交換してみてください。ビデオ接続用のピンコードはよくシールドされており、ハムノイズを防ぎます。このピンコードでハムノイズが減少する場合は現在お使いのインターコネクト・ケーブルよりもよりシールド効果に優れた高品位なインターコネクト・ケーブルに交換することをお勧めいたします。

- ご使用後約１年程度経過したらターンテーブル・プラッターのベアリングとモーターに必要に応じて注油してください。プラッターのベアリングには 1.25cc 程度の白リチウム・グリスを、モーターにはモーターオイル 1 滴を真鍮部の下につけてください。

■ヒューズ交換

電源スイッチを入れてもモーターが回転しない場合は、ヒューズが切れている可能性があります。
下記の指示に従ってヒューズを交換してください。

1. 電源スイッチを切り、AC 電源コードを外してください。

2. モーター部にある電源インレット上部のスペースがヒューズソケットとなります。マイナスドライバーなどを使ってヒューズソケットの下側中央部を手前に引き出してください。

3. ヒューズを取り出し、定格のヒューズ（100V / 1.0 アンペア、スローブロータイプ）と交換してください。

4. ヒューズソケットを元に戻し、電源インレットに電源ケーブルを接続してください。

5. 電源スイッチを入れてモーターが動作することを確認してください。

頻繁にヒューズが切れる場合は、ご購入の販売店、または弊社サービスセンターまで製品の点検をご依頼ください。

エソテリック株式会社
〒206-8530 東京都多摩市落合 1-47
http://www.esoteric.jp/

この製品のお取り扱い等に関するお問い合わせは

お客様相談室までご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～12:00/13:00～17:00です。

AVお客様相談室

0570-000-701
一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

〒206-8530 東京都多摩市落合 1-47
電話: 042-356-9235 / FAX: 042-356-9242

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センターまでご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～17:00です。

ティアック修理センター

0570-000-501
一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

〒358-0026 埼玉県入間市小谷田 858
電話:04-2901-1033 / FAX:04-2901-1036

- ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。携帯電話・PHS・自動車電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号にお掛けください。
- 新電電各社をお使いの場合はナビダイヤルをご利用いただけないことがあります。その場合はご契約されている新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号にお掛けください。
- 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

TEC SCOUT070525-008